

議事録

話し合いは以下の次第で行われました。また、情報交換での内容もあわせて、ご紹介します。

- 1 開会
- 2 開会の挨拶 会長 教育長
- 3 報告・協議
- 4 その他
- 5 閉会の挨拶 副会長
- 6 閉会

報告・協議 (一部省略)

・校長

1年目はコミュニティー・スクールとは何かを考えてきた。2年目は入谷小に置き換えてどんなことができるのかを考えていきたい。

来年度重点的に改善したいこと

- ①持続可能な仕組みを構築(人が変わっても組織が成立する。)
- ②学校の業務改善について地域住民から理解を得る。
- ③様々な学校課題にも対応できる連携を目指す。

「入谷地区地域学校協働活動」の実施(案)

- ①校地内外の除草作業の実施に向けて グリーンウェブ入谷構想促進委員会とPTAとの連携(事務局:入谷公民館)
- ②「入谷小唄」を伝える会(仮称)の創設(担当:地域連携支援運営委員)
- ③入谷見守り隊の結成に向けて こども110番の家・店、老人会等の協力(担当:安心・安全部会運営委員)

・阿部会長

除草作業について前から意見が出ている。実現に向けて進めていきたい。

・齋藤左恵子委員

「入谷小唄」は婦人会等でも協力していきたい。

・山内正男委員

学校の業務改善は大幅に進めていると思う。子供たちの学力の向上に向けて現状を変えてもらいたい。生涯学習センターと公民館との連携が必要。公民館などを中心として変えていけるのではないかな。

・教育長

今以上に公民館が集会の場となればよい。様々な会合で活用されることを望んでいる。

・佐藤貞美委員

入谷地区の人が「活躍する場がある」という気持ちで取り組めると思う。見守りについてはゴミ捨ての際に声をかけるようにしている。できる場面での応援・手助けをしていきたいと思っている。

○その他

・山内裕教諭

来年度の協議会は、4月中旬～下旬にかけて行う予定である。

持続可能な取組とするために



高橋有校長



齊藤明教育長



阿部國博会長

1月29日(水)午後7時より第3回入谷小学校学校運営協議会が開催されました。今年度から設置された会議であり、入谷小学校の「開かれた教育課程」が適切に行われるための話し合いの場です。この会議体が設置された学校をコミュニティー・スクール(以下CS)とっています。学校が掲げている「目指すべき子供像」を地域に発信し、地域の方々とともに共通の目標をもちながら協働して子供たちの育成ができていますか。どうか話し合う場となります。会議には設置者の町教育委員会齊藤明教育長が来校して、各委員に対して『入谷小学校に対する熱い思いに感謝している。今年度の反省と来年度に向けた取組について共有したい。』とお話をいただきました。その後、会議では第2回目以降のCSについての取組と評価が協議されました。また、校長より入谷小学校独自のCSの取組について説明があり、来年度に向けた具体的な方策について提案がありました。各委員から入谷の子供たちを育てていくために『私たち大人がどのように取り組んで行かなければならないか』という話し合いとなりました。

熱い思いに感謝して

CPRのキットで心臓マッサージの訓練です。短い時間の訓練でも子供たちは、命を救うことが大変であることを実感しました。



ビデオやAEDのキットを利用して説明がありました。倒れた人を見つけたときには、すぐ大人を呼ぶようにします。

緊急時には 勇気ある行動を

1月23日(木)午前9時30分より、5・6年生の救急講習会が多目的室を会場に行われました。講習会には南三陸消防署から6名の署員が来校し、子供たちに分かりやすく説明してくれました。子供たちは、心臓マッサージでは「強く」「早く」「絶え間なく」を心掛けて行うことを知りました。また、救急隊の方から「皆さんの積極的で頼もしい姿が見られ、安心しました。緊急時には皆さんの勇気ある行動が必要となります。」(一部省略)との感想とお話がありました。子供でも命を救うためにできることをしっかりと行うことが大事であることを強く感じました。

色鮮やかに!

1月24日(金) 2校時より、ひこりの里レディース(山内

さん、田中さん、三浦さん)にお越しいただき、4年生が「繭染め」体験を行いました。子供たちは、夏から育てた蚕から繭になり、繭からサナギを出す作業を行いました。その後、繭が染め液によって様々な色に染まる様子見て、感動していました。



繭染めの後に繭を広げて乾かします



いりごみ通信

第15号 発行元 入谷小CS推進委員会編集部



ホームページへのQRコード